

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 Aユニット		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381-2		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市中千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには海、川があり自然の中で過ごせる環境が整っています。施設独自の理念として「思いやり」ということを掲げており、職員全員が思いやりを持って、「人」と「人」としてしっかりと向き合っているよう支援しています。利用者様と向き合う中で、一人一人の特徴、個性を十分に観察した上で、出来ない事ばかりに目を向けるのではなく、今出来る事、得意とされていることにしっかりと目を向けるよう取り組んでいる。生活の中にもメリハリということを考え、季節に合わせた外出行事なども取り組んでいる。その他、個別の外出にも力を入れており、買い物、散歩など気分転換を図れるような生活リズムを取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての広々としたホームであり、利用者がくつろぐ居間の窓からは明るい陽差しが入ってくる。職員は利用者とともに家族との関係作りを大切にしており、信頼と安心が得られるホームを目指している。利用者の重度化を踏まえ、認知症への理解と知識を深める為に、ホームでの勉強会や研修への参加を積極的に行い、サービスの質の向上に繋げている。夏祭りには地域の人を招いたり、地元の保育園児との交流を図るなど、外部と関わる機会を少しでも多く持つようにし、利用者の生活に良い刺激になるよう努めている。また昨年より新しい管理者を迎え、以前は毎日法人より配食を取っていたが、今は週に2日、利用者と一緒に料理を作る日を設けるなど新しい取り組みを行い、利用者から好評を得ている。今後はより利用者の希望を汲んだ個別支援にも力を入れて行けるよう、職員間のチームワークを大切に実践したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念「思いやり」を掲げており、常に目につく所に掲示し、職員全員が意識を持って支援している。	「思いやり」という理念に沿った支援が、利用者と共に家族にも提供ができるよう、各職員実践に努めている。利用者を自分に置き換えて、受けたいケアとは何かを常に考え、支援にあつたている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している特別養護老人ホームと合同で、毎年7月に夏祭りを開催し、地域の方の参加も多数ある。地域の保育園児との交流会も行っている。	地域の歌のボランティアを受け入れたり、また社福祉協議会を通して初詣の付き添いボランティアを依頼するなど、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方から質問や相談を受け入れる体制を整えている。職員も外部の研修に積極的に参加し、知識の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者から意見などをもらい、サービスの向上に努めている。	定期で実施し、ホームの現状報告と情報交換が行われている。ホームが少しでも地域に周知してもらえるよう、自治会にお願いし法人新聞を回覧板で回してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業所のサービス内容、取り組みを伝え、助言も頂いている。	日頃から市の担当者にホームの情報提供を行い、現状を把握してもらっている。また、毎月市から介護指導課の担当者が来所し、その際に助言やアドバイスを受けサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様には自分の思いで行動されたりと自己決定して頂けるよう危険のない範囲で環境を整えている。外出希望などが聞かれた際は、付き添いにて思いに添った行動範囲を実現している。	法人研修会やホームの勉強会を実施している。日頃の支援が無意識に拘束にあたっていないかなど、振り返りの場とし、認識を深めるよう努めている。職員間の支援の統一を図り、理念に基づいたケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加したり、施設内にて勉強会を開くなどして職員全員が利用者様の立場に立って支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開き、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上で、御家族様、利用者様の希望、要望を聞いた上で納得を頂いている。また、退居後の対応なども説明し安心をして頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者が明記されている。玄関口に意見ボックスを設置し、御家族様からの意見などを頂く機会を作っている。	家族交流会や行事などの際に、ホームに対する意見や要望を聞くように努めている。家族との信頼関係作りを大切に、思いをサービスに実践に繋げられるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、責任者会議を開催し、職員からの意見、要望を聞き入れながらコミュニケーションを図っている。	毎月各職員が接遇チェック表を実施し、それをもとに個別面談を行っている。現場への意見や要望を聞き働きやすい職場の環境作りに努めている。また全体会議で情報の共有を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問の解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修後は、復命書を提出して頂き、全職員にも研修内容の報告、勉強会を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他施設からの意見について意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状態の把握をし、利用者様の求めていることや御家族様の要望なども理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が求めている事、負担を感じている事などを聞き入れ、理解したうえで事業所としての対応方法を伝えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、御家族様の困っている事、不安に感じている事を見極め、できることはすぐに実行するよう努めている。すぐにできない事に関しては、方策を考えながら今後の対応策として案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の喜怒哀楽を大切に考え、生活の中で、分かち合い、共に支えあう関係作り、信頼関係を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態や生活の様子などを細かく手紙にて伝えることで御家族様の安心に繋げている。御家族様に外出行事への参加も促し、利用者様との関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで培ってきた人間関係の把握に努め、利用者様の希望に応じて、馴染みの方との関係が途切れてしまわないよう努めている。	家族の協力を得て、お盆、お正月の帰省や以前から利用していた美容院などへ足を運んでいる。また、利用者が希望する場所へ外出に出かけるなど、思いに沿った外出支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士で外出したり、施設内で過ごす環境などの機会を作り、お互い支え合って生活出来る関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談があった際は、丁寧に話を聞き、御家族様の不安や心配事の解消に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人と関わる機会を増やし、言葉や表情などから思いの把握に努めている。意思疎通が困難な方には、御家族様の協力にて情報収集をしながら意向に沿うよう努力している。	本人に直接思いや要望を聞いたり、利用者同士の会話の中からヒントを貰うこともある。意思疎通が困難な人には、日常生活の中で表情や行動を見て察し、それを職員間で話し合い情報を共有して利用者の思いや意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との交流の中で意向を聞き出したり、御家族様の面会時に情報収集をするなどして本人にとって暮らしやすい環境を実現出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に出来ないことばかりに目を向けるのではなく、出来ること、得意とされていることに目を向け、生活の中での活気に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族様には日頃の生活の中での希望や要望を聞き入れ、ケアに反映させるようにしている。アセスメントを含め、カンファレンスを定期的に開催し、介護計画を作成している。	3ヶ月で見直し評価して6ヶ月毎の介護計画作成となっている。本人や家族に要望や意見を聞いて、それを職員間で話し合い決定している。状態変化が見られる場合には随時の見直しをして、現状に即した介護計画の作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや利用者様の状態把握など日々介護記録に記載し、職員間で情報共有、今後の対策について意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族様の状態に応じて、通院、外出など必要な支援を行っている。それによりメリハリのある生活リズムが実現出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域の民生委員、介護相談員、包括支援センターの職員と意見交換を行い、地域との関わりを持ちながら生活出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様が希望されるかかりつけ医との連携を図り柔軟な対応を行っている。受診は、職員が同行し、状態報告を的確に行うようにしている。緊急時は、御家族様の協力も得ている。	月2回協力医の往診があるが、利用者個々の専門医については、職員が概ね通院の付き添いをしている。協力医と利用者個々のかかりつけ医とは情報交換はできており安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が介護職員と協力し合いながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。月2回の主治医往診時にも状態報告を行い、助言を頂きながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中は、頻繁に介護職員、看護職員がお見舞いに伺い、回復状況の把握をし、早期退院に努めている。同時に気持ちのケアも行うよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用の際、終末期ケアに関しての要望を伺い、御家族様の思いに添った対応を行うようにしている。終末期、重度化になった際も再度、主治医、御家族様と相談しながら意向に添った対応を行うように努めている。	利用者の状態変化に応じて、医師、家族と話し合っている。ホームとして終末期の経験は無いが、本人や家族にとっての最善策を考えて、職員間で方針を共有してケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員による応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施したりと職員の意識の向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し、的確な対応が行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員、防火管理者立会いのもと、年2回避難訓練を実施している。その都度、全職員で反省し合いながら災害時の対応の見直しを行うようにしている。	避難訓練は消防署職員の指導により、隣接する同法人と合同で行っている。今回は地震体験車が来て職員や利用者が体験している。当ホームはスプリンクラーや、消防署と連動している通報装置など設置しており、職員が使用できるように研修を行っている。地域の人達には協力が得られること	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様本人の気持ちを大切に考え、接する際の言葉などにも注意をし、本人主体の対応を行っている。外来者への配慮も心がけ、プライバシーに関する守秘義務に努めている。	利用者を尊重しており、会話する時には、言葉遣いに気をつけている。また、当ホームに対して、接遇アンケートを家族にお願いして、結果は良い評価を貰っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う際は、すぐに答えを提示することは避け、ヒントを与えながら、自分で選ぶという機会を作るようにしている。意思表示が困難な方に対しては表情や仕草から気持ちの読み取りを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを決めず、起床、入浴、就寝時間など一人一人のペースに沿って行って頂くようにしている。関わりの中でも本人様の希望や要望を聞き入れながら生活リズムの改善に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の着替えなど、利用者様本人に選んで頂ける場を職員が提供するなど一人一人が楽しんで身だしなみが行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の利用者様の得意としている事などを把握し、利用者様同士が協力しながら調理、盛り付け、片付けなど行う機会を作っている。食事の際も職員が間に入り、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りにも努めている。	月曜日と金曜日の昼食は、職員と利用者と一緒に調理をしている。その他の曜日は配食となっており、味噌汁とご飯をホームで作っている。行事食として鍋物や焼肉などあり、利用者の楽しみ一つとなっている。また、職員は盛り付けなど利用者の能力によって発揮できる場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員が情報交換を行っている。嚥下状態にも注意をしながら観察し、必要に応じて、管理栄養士と相談しながら食事提供の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うよう促しを行い、一人一人の力量に合わせた支援を行っている。職員へも口腔ケアの大切さを考えて頂けるよう常日頃から伝えていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムの把握を行うと共に、排泄チェック表に水分摂取量も記載し、水分摂取量との関連性も考えながら尿意、便意困難な方には声かけにて排泄案内に努めている。	職員は概ね2時間置きに定期的にトイレに誘っており、紙パンツを使用している人でも、必ずトイレに誘っている。利用者の行動や表情を察して誘う時もあり、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し、便秘傾向が見られる方には、乳製品などの提供にて便秘の予防に努力している。日々の運動にも注意しながらラジオ体操、近隣への散歩などにて運動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴して頂けるよう浴室の準備を行っており、一人一人の培ってきた生活習慣に沿うよう努力をしている。季節に応じて脱衣所の室温にも注意し体調管理にも努めている。	入浴は午前は10時～11時30分、午後は14時～15時となっているが、利用者の状態をみて、安心して入浴してもらっている。週2回以上は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠傾向が見られる方には、就寝前の足浴など行って頂いたり、温かい飲み物を提供するなどして気持ちをリラックスして頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬の説明書、注意事項をケースファイルに保管し、薬の重要性を全職員が認識出来るにしている。服薬時には、飲み終えるまで必ず見守りを行い、誤薬の危険性に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の特徴、得意としている事を見極め、出来る事は積極的に行って頂く場を提供している。活躍する場ということにも力を入れるようにし、達成出来た時の喜びを感じて頂けるよう考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に近隣への散歩へ出掛けられるよう声かけにて支援を行ったり、行事の中でも季節に合った行事内容を企画するなど利用者様に四季を感じて頂けるよう取り組んでいる。	近隣の散歩を始め、毎週木曜日は食材や日用品の買い物の日となっており、利用者と一緒に出かけている。月1回は利用者のリクエストに応じて外出行事がある。また、初詣など季節を感じる外出もあり、外出する機会はおおい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については御家族様の意向に合わせて事業所管理の方もいる。本人の意向も考え、御家族様と相談し、自己管理されている方もみえる。買い物での支払いなど一人一人の力量に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、親しい方と電話で話をしたり、御家族様へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと、大切な方との関係が途切れてしまわないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を中心に四季を感じて頂けるような飾りつけを工夫している。飾りつけを行う際は、利用者様と協力して作り上げるということも考え、利用者様の意向も取り入れるよう心がけている。	玄関には、利用者の手作りの作品が飾ってあったり、利用者の写真や日常の様子がわかる写真など飾ってある。また、中庭があり、そこで暖かい時には寛ぐ人時もある。トイレや浴室も清潔である。居間のソファで寛いだり、畳の部屋にはコタツがありそこで寛ぐ人もいて、利用者個々に居心地のよい場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、畳スペース、ソファを設置しており、気の合う仲間同士で過ごせる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、タンス、思い出の写真など本人にとっての馴染みな物を持ち込まれており、その時々で利用者様の要望に応じて御家族様と相談しながら心地よい空間を作っている。	居室はスッキリとしているが、写真やタンスなど置いてあり、利用者にとって居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、バリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で危険と感ずることがあれば、その都度、職員同士で話し合い、環境改善に取り組んでいる。		

事業所番号	2392000044
事業所名	グループホーム喜寿苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	地区の掲示板に夏祭りなどのホーム行事の案内を掲示してもらい、地域の人に催し物のお知らせをしている。また今年から中学生の職場体験を受け入れており、子どもと交流する機会が設けられ利用者から喜びの声が聞けた。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	2ヶ月に1回定期的に実施し、毎回市の職員、自治会長、民生委員、老人クラブなど多数の参加協力を得ている。ホームの情報交換などを行う中で、地域の高齢者がグループホームが実際にどんな所で何をしているのかを知りたいと、老人クラブを通して意見があがっている。その意見を踏まえて見学の受け入れを検討しており、より多くの人に周知してもらえよう、話し合いを進めている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	市が主催する研修会に積極的に参加し、職員のスキルアップを図っている。また、災害時の協力体制を地域包括支援センターに依頼し、緊急時に備えた連携に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	利用者の日頃の様子を、毎月家族にお便りで報告をするようにした結果、ホームへの要望や意見が多く聞けるようになった。それをすぐにサービスへ反映させており、家族からの信頼と安心が得られているのがアンケートから伺える。また、家族のホーム行事への参加や面会の数も増え、相互の協力関係が築かれている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

